

岩木山の火山活動解説資料（令和2年10月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～5）

百沢東監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。20日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、噴気や地表面の異常は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図6）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 岩木山 山頂部の状況（10月19日）

・百沢東監視カメラ（山頂の南東約4km）の映像です。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、弘前大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

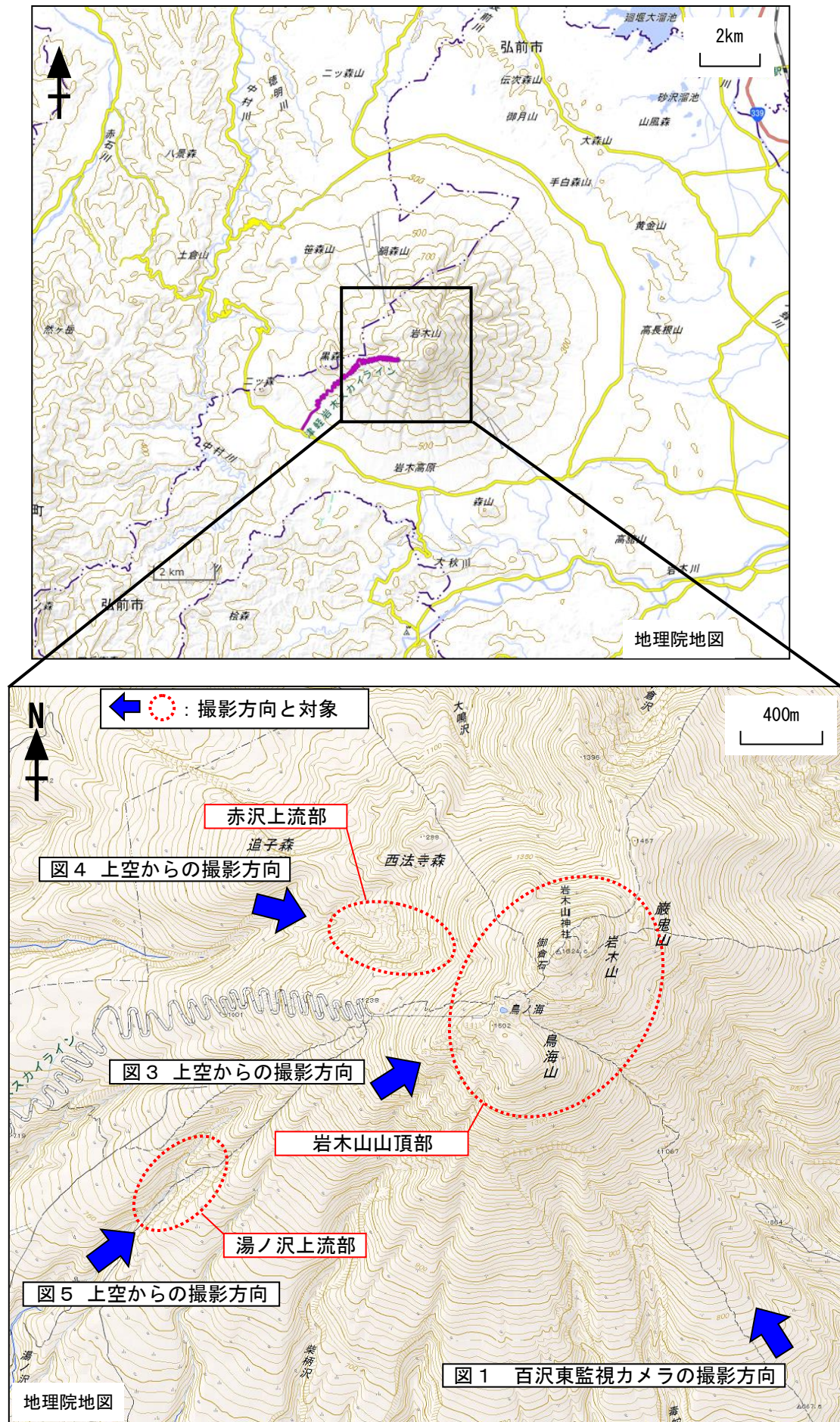


図2 岩木山 写真の撮影対象と撮影方向（下図）と広域図（上図）



図3 岩木山 上空から撮影した山頂部の状況

- ・岩木山の山頂部を南西方向から撮影した画像です。
- ・鳥ノ海火口周辺では有史以降に噴火の記録があります。

鳥ノ海火口やその周辺に噴気や地表面の異常は認められませんでした。



図4 岩木山 上空から撮影した赤沢上流部の状況（左：2020年、右：2016年）

- ・赤沢上流部を西方向から撮影した画像です。
- ・赤沢上流部では、1970年に立木の枯死などの異常が観測されています。

赤沢上流部に噴気や地表面の異常は認められませんでした。



図5 岩木山 上空から撮影した湯ノ沢上流部の状況（左：2020年、右：2016年）

- ・湯ノ沢上流部を南西方向から撮影した画像です。

湯ノ沢上流部に噴気や地表面の異常は認められませんでした。

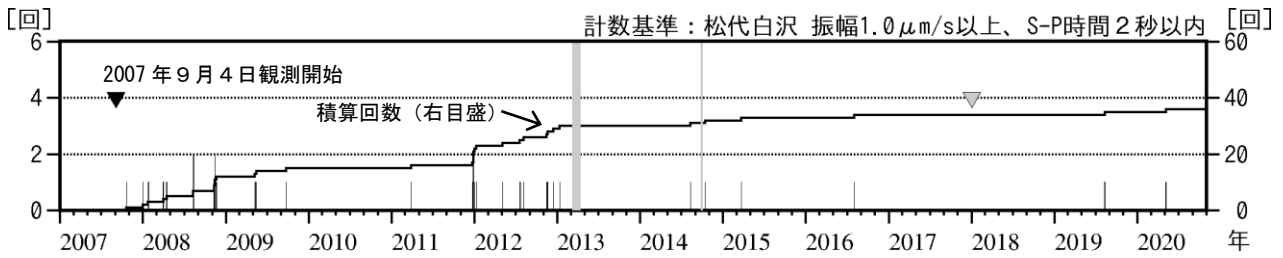


図6 岩木山 日別地震回数（2007年9月～2020年10月）

- ・地震計数に使用した観測点は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）
- ▼観測開始 2007年9月4日～ 弘前大学百沢観測点 [振幅 1.0 μm/s 以上、S-P 時間 2 秒以内]
- ▽ 2018年1月1日～ 松代白沢観測点 [振幅 1.0 μm/s 以上、S-P 時間 2 秒以内]
- ・図中灰色部分は欠測を表しています。

観測開始以降、地震活動は低調に経過しています。

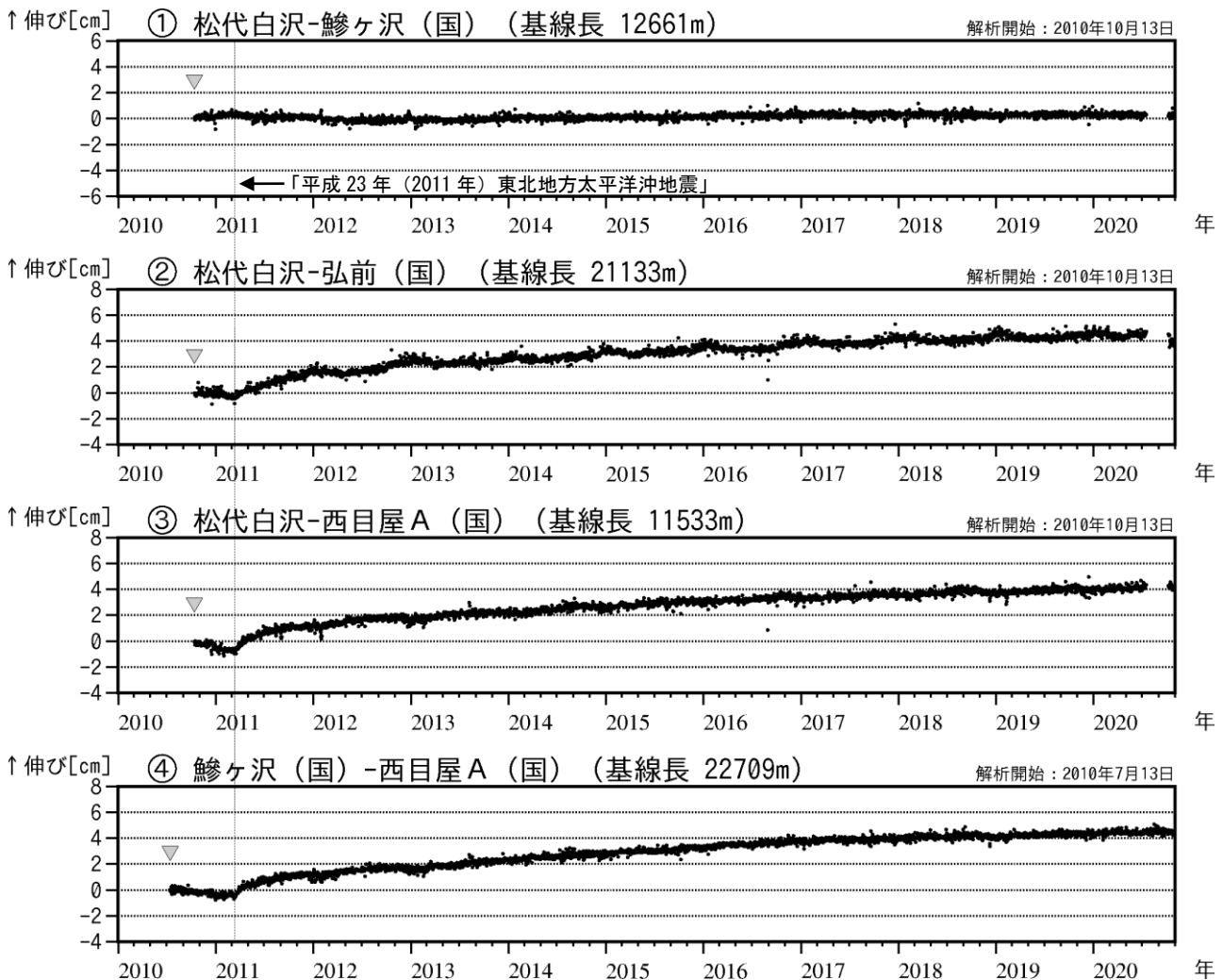


図7 岩木山 GNSS 基線長変化図（2010年7月～2020年10月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～④は図9のGNSS基線①～④に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▼：解析開始を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

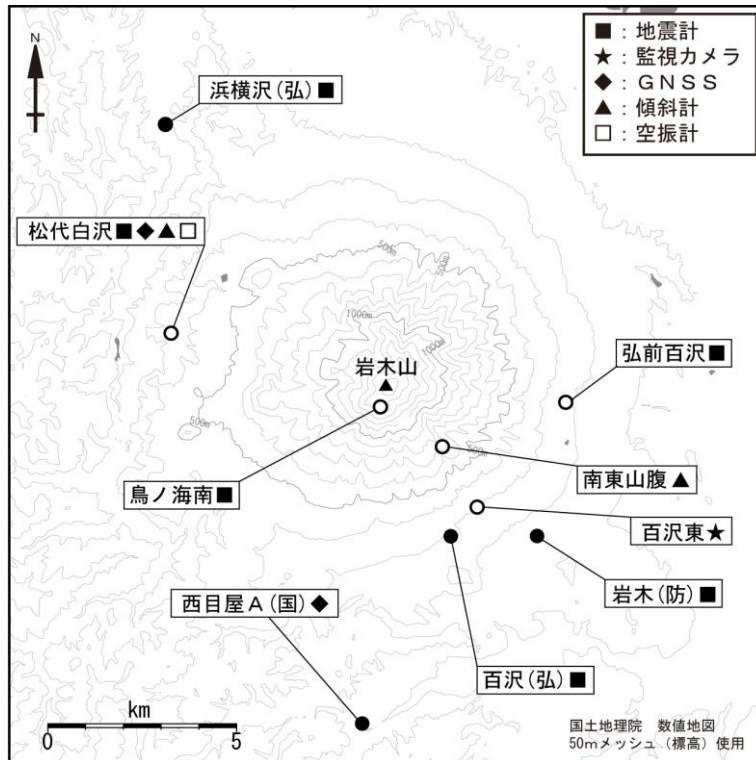


図8 岩木山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （弘）：弘前大学

（防）：防災科学技術研究所

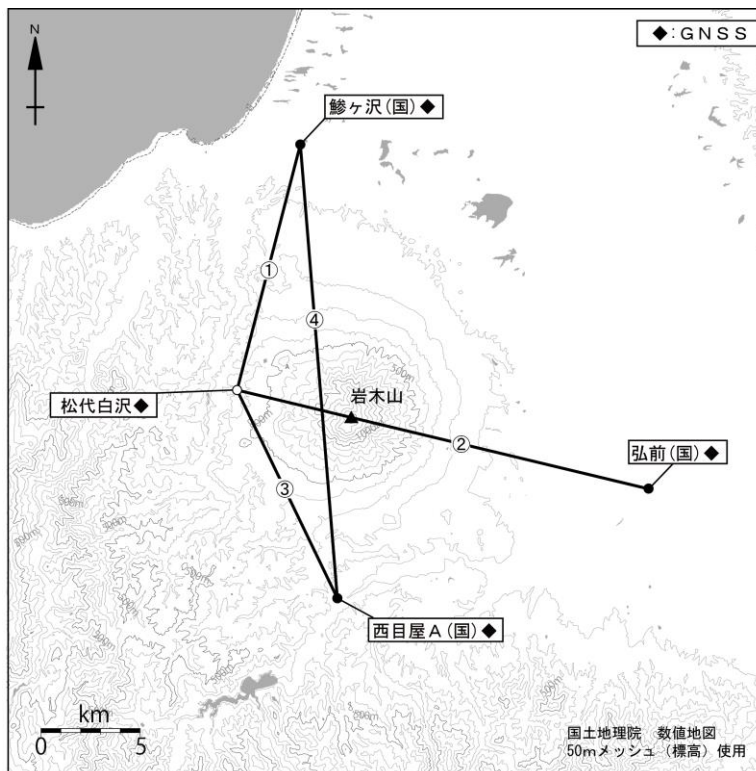


図9 岩木山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院